令和８年度　第１回石狩市民図書館協議会の会議　議事録

令和８年９月10日（木）午後３時より午後４時30分
石狩市民図書館　視聴覚ホール

出席者	石狩市民図書館協議会	会　長	河村　芳行
		委　員	佐藤　寿昭
			秋田谷　順子
			高坂　淳
			麓　あゆみ
			長谷川　洋子
	石狩市民図書館	館　長	森本　栄樹
		副館長	工藤　一也
		サービス支援兼事業担当主査	工藤　直揮
		事業担当主査	宮本　智徳
欠席者	石狩市民図書館協議会	副会長	松谷　初代
		委　員	望月　静華
		傍聴者	なし

＜会議次第＞
１．館長挨拶
２．委員の紹介
３．関係職員紹介
４．会長の選出
５．議事
（1）図書館要覧について
（2）令和８年度 事業進捗状況と今後の事業等について
６．その他

■開会

＜宮本主査＞
おはようございます。それでは定刻となりましたので始めさせていただきます。
本日は、大変お忙しい中、ご出席いただき、誠にありがとうございます。
会長が選任されるまで、図書館職員が進行させていただきますので、よろしくお願いいたします。
これより令和８年度　第１回石狩市民図書館協議会を開催いたします。
第 14 次 石狩市民図書館協議会の第１回目となります。これから２年間、よろしくお願いいたします。なお、本協議会委員の任命にあたり、皆様への任命状を、開会に先立ち机の上に置かせていただきましたので、ご確認をお願いいたします。
本日の欠席は松谷委員と望月委員の２名となっております。
もう１名、長谷川委員につきましてはこちらの方へ向かっているかと思われます。

次に、西田教育長よりご挨拶申し上げます。

■教育長挨拶

＜西田教育長＞
皆さんこんにちは。
ご紹介いただきました、教育長西田でございます。
本日はご多用のところ、第 14 次石狩市民図書館協議会第 1 回会議にご出席いただき、誠にありがとうございます。
また、このたび委員をお引き受けいただきました皆様には、石狩市民図書館の運営と発展のため、それぞれのお立場からご協力を賜りますことに、心より感謝申し上げます。
さて、石狩市民図書館本館は平成 12 年の開館以来、多くの市民の皆様をはじめ、関係団体やボランティアの皆様に支えられながら運営を続けてまいりました。
開館から 26 年目を迎えた現在におきましても、読書や調べものの場としてはもちろん、読み聞かせや上映会など様々な事業を通じて、日々多くの方々にご利用いただいております。
このように、図書館が市民の学びや交流を支える拠点として親しまれておりますのも、委員の皆様をはじめ、図書館運営に関わる多くの方々のご理解とご尽力の賜物であり、改めて深く感謝申し上げます。
石狩市民図書館の大きな特徴の一つは、図書館の中に社会教育課を配置していることであります。
図書館サービスと社会教育施策が日常的に連携できる環境にあることから、市民の学習活動や

文化活動、地域づくりに関する様々な取組を一体的に進めることが可能となっております。
これは本市ならではの強みであり、市民の多様な学びのニーズに応え、地域のつながりを育む上で大きな役割を果たしているものと考えております。
今後におきましても、市民図書館が掲げる「図書館のなかに街をつくる」というコンセプトのもと、人と人とのつながりや学びの輪を広げる機能をさらに充実させ、市民一人ひとりが生きがいを感じながら暮らすことのできるまちづくりに貢献してまいりたいと考えております。
委員の皆様には、本協議会においてそれぞれの専門的なお立場から忌憚のないご意見、ご提言を賜りますようお願い申し上げます。
結びに、本協議会の活発なご審議と、委員の皆様のますますのご健勝、ご活躍を祈念申し上げまして、開会にあたってのご挨拶とさせていただきます。
本日はどうぞよろしくお願いいたします。

■委員の紹介

＜宮本主査＞
ありがとうございます。
続きまして、委員の皆様をご紹介いたします。委員名簿記載の順でお呼びしますので、一言、お願いいたします。
それでは、佐藤委員、よろしくお願いいたします。

＜佐藤委員＞
石狩八幡小校長の佐藤と申します。
2期目となりました。
どうぞよろしくお願いいたします。

＜宮本主査＞
望月委員は本日欠席です。
松谷委員も本日欠席となっております。
それでは、秋田谷委員、よろしくお願いいたします。

＜秋田谷委員＞
石狩市PTA連合会から参りました秋田谷と申します。
よろしくお願いいたします。

＜宮本主査＞

それでは、高坂（たかさか）委員、よろしくお願いいたします。

＜高坂委員＞
石狩市保育所連絡協議会で会長、認定こども園・ひかりのこ　いしかり園長の高坂と申します。
どうぞよろしくお願いいたします。

＜宮本主査＞
それでは、河村委員、よろしくお願いいたします。

＜河村委員＞
北海道武蔵女子短期大学の河村と申します。
どうぞよろしくお願いいたします。

＜宮本主査＞
それでは、麓（ふもと）委員、よろしくお願いいたします。

＜麓委員＞
はい。
藤女子大学図書館から参りました、麓あゆみと申します。
この４月に札幌のキャンパスの図書館に移動になりましたが、それまで 20 年間、花川キャンパスの図書館におりました。
その前にも 4 年間いたことがあるので 24 年間、石狩市の花川キャンパスの図書館で石狩市民の皆さんにも利用いただいておりました。
個人的にもこちらの図書を利用させていただいておりましたので、この度委員を務めさせていただくということで光栄に思っています。
どうぞよろしくお願いいたします。

＜宮本主査＞
はい。
それでは最後に長谷川委員、よろしくお願いいたします。

＜長谷川委員＞
はい。
公募ということで、すぐこの近くに住んでおりまして、こどもたち、そして孫たちもここに来ているのではないかと思います。
石狩市で主任児童委員と人権擁護委員をさせていただております、長谷川と申します。

よろしくお願いします。

＜宮本主査＞
ありがとうございます。
次に、職員の紹介をいたします。

＜森本館長＞
4月1日に図書館長に就任した森本と申します。
皆さま方のお力を借りながら、より良い図書館運営に努めて参りますので、どうぞよろしくお願いいたします。

＜工藤副館長＞
副館長の工藤です。
よろしくお願いいたします。

＜工藤主査＞
サービス支援担当兼事業担当の工藤です。
よろしくお願いいたします。

＜宮本主査＞
事業担当の宮本と申します。
よろしくお願いいたします。

それでは次に会長・副会長の選出となります。
どなたかご意見はありませんか？

＜佐藤委員＞
はい。

＜宮本主査＞
佐藤委員、お願いします。

＜佐藤委員＞
はい。
前任期に引き続いて、会長には北海道武蔵女子短期大学教授の河村委員、副会長につきましては、本日欠席ですけれども、よみきかせ子っ子の会の松谷委員がよろしいのではないかと考え

ますが、いかがでしょうか？

＜宮本主査＞
ありがとうございます。
ほかにご意見がある方いらっしゃいますか？
ご意見がなければ河村委員を会長、松谷委員に副会長をお願いすることとしまして、松谷委員には後日、事務局からその旨をお伝えしたいと思いますがよろしいでしょうか？

－ 会場から異議なしの声 －

＜宮本主査＞
ありがとうございます。
では、河村委員は会長席へ移動をお願いいたします。

－ 河村委員、会長席へ移動 －

＜宮本主査＞
それでは、就任のご挨拶をお願いいたします。

＜河村会長＞
こんにちは。
改めまして、河村でございます。
よろしくお願いいたします。
この度、引き続きこの石狩市民図書館協議会の会長の職を務めさせていただくことになりました。
大変光栄に思っております。
再び、石狩市の図書館行政の発展に携われ、同時に改めてその責任の重さに身が引き締まる想いをしております。
振り返りますと、実は私はこの図書館の建設の時、2000年の頃からちょっと関わりがありまして、色々とオープンなどの題材に関わらせてもらっている図書館なのですが、26年経ちまして来てみてもやっぱり先進的な良い図書館だなと今でも思っております。
今年の11月3日に伊達市の図書館がオープンするのですが、2年ほど前からアドバイザーをし

ておりまして、私の思いを込めた図書館ができるのですけども、石狩を十分参考にさせてもらいながら、建築設計のほうに依頼していた次第です。
一方、近年ではデジタル化、特に AI の進展や多様化する市民のニーズに対応など、図書館を取り巻く環境も大きく変化してきております。
こうした時代の中に柔軟に対応しながらこどもからご高齢の方まで誰もが親しめる図書館を目指して委員の皆さまと活発に意見を交換させていただきながら、より良い図書館の運営のために提言できるよう進めて参りたいと思っております。
これまでと変わらず、皆様よりご協力を賜りますよう、よろしくお願いいたします。
簡単ですが、挨拶に代えさせていただきます。
ありがとうございます。

＜宮本主査＞
ありがとうございます。
ここで公務の都合により教育長が退席いたします。

＜西田教育長＞
よろしくお願いいたします。
失礼いたします。

＜宮本主査＞
それでは、これより河村会長に議事進行をお願いしたいと思います。
よろしくお願いいたします。

■議事

＜河村会長＞
はい。
では、改めまして本日の会議の予定を確認させていただきます。
議題の 1 点目「図書館要覧について」、2 点目「令和 8 年度事業進捗状況と今後の事業等について」の 2 点となっております。
17 時、午後 5 時を目途に終了したいと思いますので、円滑な協議を進めるために、皆さんご協力の方をお願いいたします。
図書館から議事録の記録方法について説明があります。
よろしくお願いいたします。

＜宮本主査＞
はい。
図書館から以下の提案をさせていただきます。
本協議会の議事録は、全文筆記で記録し、図書館で議事録の調整を終えた時は、出席された皆さまに内容の確認を行っていただき、会長の署名により議事録の内容を確定させていただきたいと考えていますが、いかがでしょうか。

－ 会場から異議なしの声 －

＜宮本主査＞
はい、それでは全文筆記ということでよろしくお願いいたします。

＜河村会長＞
はい、全文筆記ということになりましたのでよろしくお願いいたします。
この部屋は大変声が通る部屋でマイクがいらないという他の会議場とは違ってとても素晴らしいですので、議事に入らせていただきます。
図書館要覧について図書館から説明をお願いいたします。

＜工藤主査＞
はい。
それでは工藤よりこちらの方の図書館要覧につきまして説明いたします。
こちらのほうは令和７年度の図書館事業や各種統計関係法規等をまとめた資料となっております。
各種統計や事業などの数字につきましては、令和８年３月 31 日を末日として計算し、まとめています。
令和７年度は前年度より若干入館者数は減少となりましたが、これは曜日の関係で開館日数が前年より６日間少なくなった影響が大きいと考えております。
利用登録者数につきまして、令和６年度に「３年間貸出未利用者の登録データ削除」を実施したのですが、今年度はこちらの方を行わず、通常の処理に戻しましたので、その影響もあり昨年度より利用者数は減となっております。しかし令和５年度よりは利用者数は増加しており、想定よりも利用者数については増加傾向が続いていると考えております。
また、要覧の１７ページをごらんください。
事業者等からの寄附・寄贈について説明いたします。
令和７年度の寄贈は、北海道アナログゲーム教育研究会長　五十嵐 正博士 様より、ボードゲ

ーム17点の寄贈がございました。
福岡 孝　様より市内小中学校に自著『ほっかいどう！図解 自然環境＆自然災害』を各1冊ずつの寄贈がございました。
株式会社　環商事　様から児童書88冊の寄贈がございました。
米沢 茂 様より「石狩市八幡地区家屋配置図1部」の寄贈がございました。
株式会社　ワールドウッティ　様から10万円分の図書の寄贈がありました。
ワールドウッティ様は昨年度まで直接寄附という形で10万円の寄附をしていただいておりましたが、今年度は環商事様と同様の10万円分の図書の寄贈という形に切り替えたいとのご要望がありましたので、このような形となったところでございます。
私からの説明は以上となります。

＜河村会長＞
はい。
図書館の方から説明がありましたので、これから質問をお受けしたいと思いますが、ご発言の前にお願いがあります。
先ほど記録を取るということで、ご承認いただきましたが、私の方から指名された際にはお名前をおっしゃっていただいてから、できるだけ大きな声でご発言をお願いしたいと思います。
それでは、報告に対してご質問がお有りの方、いらっしゃいますでしょうか？

＜工藤副館長＞
会長すみません。

＜河村会長＞
はい、どうぞ。

＜工藤副館長＞
1個、付け足しでご報告をさせていただきたいのですけれども、先ほど寄附・寄贈のところでですね、1点洩れておりまして。
昨年、NPO法人ひとまちつなぎ石狩さんの方からですね、図書費として6万円の寄附をいただいておりますので、そのことを付け足しさせていただきます。

＜河村会長＞
何かございませんか。
要覧全部の説明があったわけではないのですが、入館者数が減ってきているっていう冒頭でのお話がありました。
貸し出し冊数は減る傾向にはあるのかなとは思っているのですが、入館者数が増えて、滞在し

やすいということで石狩市のようなこういう大きな図書館ですと滞在利用ということで、入管者数は増えていて貸出しが減るということかなというふうに思いますがなんか原因があるのでしょうか。
図書館の方で何か思いつくようなことはありますか。

＜工藤副館長＞
入館者数の減少については先ほどありましたけれども、開館日数が前年より 6 日間少なくなった影響が大きく、1 日あたりの来館者数が平均 500～600 人ぐらいですので、3,000 人程度ですので、そういうところが影響したのかなと思います。
ただ感覚的に言いますと、本借りる方っていうのも減っているような感じはしませんですし、夏場はクーリングシェルター的にクーラーを求めて、座る席がなくなるぐらい来られることもありますし、テスト時期になりますと学生さん達が席いっぱいになって、その時に空いている視聴覚ホールなどの部屋を自習室として解放している状況を考えますと、滞在していただいて、たくさんの方に利用していただいているのかなというような、感覚的なことでいうとそういうふうに思っております。

＜河村会長＞
はい、ありがとうございます。
長時間滞在で利用されている、開館日数が前年度はちょっと少なかったというだけで、それ以外は前年度とほぼ変わらないだろうというお話をいただきました。
他に、何か皆さんはご質問とご意見はありませんでしょうか。
初回でなかなか質問しにくいのかなとも思いますけど。

＜麓委員＞
要覧の 14 ページの下の方に「3　市民の誰もが利用できるような環境を整備する」ということで「宅配サービス」についての記載があります。こちらはとても素晴らしいサービスだとは思いますが、送料が利用者負担ということで、実際には利用者がいらっしゃるものなのでしょうか。

＜工藤主査＞
年に数件程度ですね。

＜麓委員＞
あ、そうなのですね。

＜工藤副館長＞

麓委員がおっしゃっている通り、送料がすごい高くなってきておりますので、借りるよりも本を買うのと同じぐらいの金額になってしまう場合もありますので、先ほど工藤主査がご説明しましたが、年に数件あるかないかというところで、今その方法については何か良い方法はないのかというところで、たまたま石狩の郵便局と連携協定を結んでいるというところもありますので、その中で例えば「送料をなんとか抑えることはできないのか」、「郵便局で図書の受け取りができないのか」など、そういうところをまだまだ検討段階ですけれども、話し合っている状況ですので、何かできればもっと利用促進に繋がるのではと思って、そういう取り組みをしております。

＜麓委員＞
ありがとうございます。

＜河村会長＞
とても大変いいご質問いただきました。
ありがとうございます。
宅配サービスの送料は、受益者負担ですか。

＜工藤副館長＞
そうです。

＜河村会長＞
障がいのある方とか後期高齢者とかには何もない？

＜工藤副館長＞
障がいのある方に関しては減額措置をとってはいますけれども、それでもなかなか利用するという方は少ないのではないかという状況です。

＜河村会長＞
これは有料でもそういうサービスを行っているのだよっていうポーズだけでもいいかなとは思っているのですが、後はこちらの方では道立図書館の電子書籍利用は申し込んでもらえますか。

＜工藤副館長＞
はい。
昨年、令和７年の４月から本図書館において道立図書館の利用登録ができるというサービスを開始しておりまして、道立図書館の利用者になると電子書籍を見ることができる。

あと、オーディオブックを聞くこともできるということがサービスとしてできますので、まずはそういうことを周知・啓発し、利用促進に向けて取り組んでいるところです。

＜河村会長＞
はい、ありがとうございます。
今、お話しさせていただいたのは、私、道立図書館の協議会も引き受けているのですが、コロナ禍以降の肝煎りで電子書籍サービスを活用して電子図書館が各市町村の図書館の支援をするという形でスタートしております。
まだあまり市民の方々が知らないかなと思うので、市の住民の方々に周知をしていただくと。
そして、今後は本自体を郵送するということ自体はだんだん減っていくとは思いますし、今コンテンツがあまり充実していませんけれども道立図書館が持っている電子書籍以外にあの立ち読みできるのですよ。試し読みみたいな。電子書籍サービス「KinoDen（キノデン）」なんですけれど、その辺のも周知してもらって。書店との協力もありますが、図書館が全面的にというわけでなくても欲しいものがあったちょっとでもっていう形で。とても便利なのですけど、知らないのですよ。伊達の市民もずっと昨年も当初も行っていたのですが、市民が知らなくて、「そんなに使えるの」と言うのです。もちろん、伊達の図書館は一早く道立図書館の協力館になってもらったのですけれども、市民が知らなくて。
だから、その辺については少し力を入れて市民に周知してもらうと、今の宅配サービスについてはだんだん形骸化してくるかもしれませんけども、こういうサービスはありますよっていうので一応残しといてもらうというのがよろしいかなと思います。
ありがとうございます。
他にございませんか。
何かお気づきの点とかご質問とか。

－ 各委員から発言なし －

＜河村会長＞
では、気づいた点や再度質問をしたい場合、ご意見したくなった時に戻ってきますが、次に「令和８年度事業進捗状況と今後の事業等について」という２番目の議題に入りたいと思います。
事務局の方からお願いいたします。

＜工藤副館長＞
私から令和８年度事業進捗状況と今後の事業等についてですが、色々と写真などを出しながらご説明したいと思いますので、お手元の資料と合わせてご覧いただければと思います。

[市民図書館]
（①こどもの読書週間記念事業）
まず初めに事業進行状況ということで市民図書館の分についてご説明いたします。
1つ目、こどもの読書週間記念事業としまして、4月22日からで5月10日までの期間にこどもたちに読書を楽しんでいただくということでお話し会やとしょかんビンゴ、オリジナルしおり作りなど、このほか絵本作家・指人形作家のかとうまふみさんをお呼びして、お話し会とオリジナル指人形作りのワークショップを行いました。

（②開館周年記念展示）
次に、開館周年記念事業としまして、図書館は2000年の6月3日に開館しておりまして、毎年この期間に開館周年記念事業として職員がおすすめする本を紹介しております。

（③図書館ボードゲームイベント「図書館でボードゲームしちゃだめですか？」）
次に図書館のボードゲームイベントということで、来館がなかなか少ない中高生を対象にとにかくどうにか来館していただけないだろうかということで、ボードゲームイベントを昨年度からスタートして、今回、6月21日に3回目のイベントを行ったのですけれども、参加者が3名ということでなかなか集めるのが大変だなということで、1回では8名来たんですけど2回目が3名、3回目が3名ということで、なかなか難しい事業なのかなということを感じております。

（④図書館ボードゲームイベント「図書館でTRPGを遊んでみる会」）
それを踏まえて、次に図書館でTRPGを遊んでみる会というものをやっております。
TRPGというのは、自分がキャラクターになりきってそこで演じるっていうことを楽しむ遊びというか、ボードゲーム的なものということで（写真での）右側の方がゲームマスターという方で進行役なのですけども、その方がこの4人のプレイヤーに対して「あなたはどうしますか？」などとプレイヤーに行動判断を振って、プレイヤーが演じきってセリフをしゃべるなどということをやるのですけれども、これを5時間ぐらい実施したのですが、これには大人8名、高校生4名、中学生5名ということで中高生も来ていただけたということで、全部で17名の参加がありました。
これやはり需要があるのだなということで、こちらの方をメインに今後は中高生イベントとして取り組んでいこうかなと思っております。

（⑤不登校傾向にある生徒とボードゲーム）
次に、今まで買ったボードゲームは結構ありますので、それを花川南中学校で試験的に不登校気味の生徒さんたちに学校図書館に集まってもらってボードゲームをしましょうっていう取り組みを6月・7月に行ってみまして、なかなかの好評でみんなで和気あいあいで楽しんでい

ただいて、コミュニケーションをとることができ、このような取り組み方法もあるのかなと感じました。

（⑥ボードゲームの管内貸出し拡大）

昨年の8月にボードゲームを3種類、図書館の中で使っていいですよということで貸し出しを開始したのですが、今年についてはプラス30種類ということで、33種類用意しまして、図書館の中であの閲覧室ではダメなので、エントランスホールやホワイエで楽しんでもらえますよということを実施すると、親子ですとか高校生の男女2人が遊んでいたりしていたので、目的としては大分いいなと思っています。

日曜日とかもこれをする場所がないよっていうことを言われますので、視聴覚ホールや研修室を自習部屋として開放する時があるのですが、同じように開放したりしています。

（⑦イチからつくるIshikaripedia～海獺さんのワークショップ＆講演会～）

次に先日行ったイベントですけども、ウィキペディア、ご存じだと思いますが、ウィキペディアを石狩市のことについて作っていこうというワークショップを実施しました。

これは、日本語版の管理者だった海獺（らっこ）さんという方をお招きしてイチからウィキペディアの記事を作ろうと、今回石狩油田をテーマにして作りました。

これは図書館の本を資料としてもちろん使うということも含め、みんなで一つの記事を作成し、公開したところ、意外と凄く注目を浴びまして、時間的な人気ランキング的なもので注目されてピックアップされたということもあります。

（⑧除籍図書設置場所の検討）

次に除籍図書、図書館の中で古くなった本だとかを最終的には処分しなければいけないのですが、市内の郵便局14箇所にそれを置いてそこで読んでもいいですし、持ち帰っても良いというようなことをしたり、図書館内にも持ち帰って良いですよというコーナーを作ったりしているのですが、これを更に拡大できないかということで、以前、図書館協議会の中でご意見をいただいておりました、病院や美容室はどうかということに対して、石狩医師会へ相談してみましたが、結果としては、衛生的な問題で病院へ置くことはできないとのことでした。

また、歯科病院については札幌歯科医師会へ相談したところ、現在、歯科病院では全体的にペーパーレス化の流れになっており、紙の本は置かないという流れになっているとのことでお断りされたところです。

美容室についても、大体タブレットで雑誌を読むような形になっていることを踏まえて色々と検討しましたが、現状はこれ以上の拡大は難しいと判断していることをご報告させていただきます。

（⑨ふらっとくらぶによる図書館のお手伝い）

次に、ふらっとくらぶ、不登校または不登校ぎみになっている児童生徒に対して教科学習や個

別・集団活動、体験活動等を通して、学校への復帰あるいは社会的な自立を支援する場所なのですが、そこに関わる児童生徒が学校復帰をする目的の一つとして図書館で本の整理やお手伝いを他の児童生徒が来ない平日の時間帯を利用して、社会に接する機会を与えるということを始めてみております。

（⑩マイクログリッド事業に伴う図書館への太陽光パネルの設置）
続きまして、図書館の屋根の上に太陽光パネルが設置されていること、お気づきでしょうか？こちら、最近設置されまして、マイクログリッド事業ということで、図書館・給食センター・児童館（あいぽーと）の3施設において、太陽光を利用した自家発電によりエネルギーを賄うプロジェクトが市において実施されております。
これにより、3施設のどこかが停電になった場合でも他の2施設で賄い合うことができることとなり、施設の見た目も少し変わってきているところです。

[学校図書館]
（①学校司書連絡会議）
次に学校図書館についてご説明したいと思います。
学校図書館については小学校・中学校へ学校司書を配置しておりますけれども、1人での運用、または担当の先生と協力しての運用で月に1回、図書館に集まって会議をしております。

（②市内市立学校の図書館利用ガイダンス）
図書館も利用の方法や調べ方、館内見学などを実施しておりまして、基本的には小学校2年生を対象に実施しておりまして、今現在4校実施しておりまして、これから3校実施する予定となっております。

[市民図書館・社会教育課共同事業]
（①市民展示室の開設）
続きまして、市民図書館と社会教育課が共同事業をいくつか実施しておりまして、その1つとして市民図書館の中に市民個人が展示できる展示スペースを設けております。
そこで、生涯学習の発表の場ということでなっておりまして、プラモデルや色々なものが展示されておりまして、今現在は厚田の「みんなの居場所あつみん」について展示がされておりますので、もしお時間があればご覧いただければと思います。

（②こども司書養成講座）
もう1つの事業として、こども司書養成講座になります。
こちらは令和5年からスタートしておりまして、今回4年目です。
何回かの講座を終えるとこども司書に認定し、こども司書になったら次の年はこども司書養成

講座のお手伝い、図書館まつり、これから行われる科学の祭典などのイベントへお手伝いに来ていただいています。
今年は6名が認定されまして、この中には社会教育的な要素として石狩で採れた材料を使ってカレーライスを作るなどして、その中で人との関りを学んだりしています。
これについては、毎年参加者が 6～8 名程度と少ない人数となっておりますが、少ない方が参加者同士仲良くなりやすい傾向もあり、お手伝いに来てくれる前年度のこども司書ともつながりができているので、この事業は継続していきたいと考えております。

[今後の事業等について]
（①第16回科学の祭典 in 石狩）
次に今後の事業についてご説明いたします。
9月13日（日）に第16回科学の祭典 in 石狩が行われます。
これは、図書館のエントランスホールを利用して、色々な実験的なものから自然について、加えて今回は天気に関するものなど、17ブースの出展があり、こちらは大学や民間企業などの幅広い方々が参加してくださっており、イベントの参加者としては、幼稚園児から小学校低学年程度のこどもたちをターゲットに実施しております。

（②第23回図書館まつり）
続きまして、第23回図書館まつりについてですが、10月24（土）・25日（日）に実施します。
時期的なことからハロウィン的な要素を入れていく予定で、これは昨年から行っている試みです。
昨年を例にご説明しますと、仮装したこどもたちに来館していただきまして、それを楽しんでいただき、色々と音楽やマジックショーなどの催し物を2日間にわたって実施するというお祭りをしております。

（③大人の図書館 JAZZ NIGHT）
次に大人の図書館 JAZZ NIGHT ですが、今年は11月15日（日）の18時から、図書館のエントランスホールにおいて JAZZ を聞きながお酒を飲むイベントを実施します。
こちら、石狩産の茹で落花生をおつまみに出しており、毎年、椅子を置く場所が無くなるほどの好評をいただいているイベントとなっております。

（④調べる学習コンクール）
次に調べる学習コンクールです。夏休み期間中にこどもたちに何か調べていただいて、それを成果物として出していただいており、こちらの表彰式を11月22日（日）に図書館で行います。

（⑤石狩南高校との連携事業）

続きまして、次は石狩南高校との連携事業ということで、石狩南高校さんからお声がけいただいて実施することとした事業です。石狩南高校の美術部の方々がゼンタングルの手法を用いたしおりを制作し、閲覧室で展示する予定となっております。

（⑧石狩翔陽高校との連携事業）
また、初の試みですが石狩翔陽高校とも連携事業を予定しており、１年生が美術の授業で作成したブックカバーを閲覧室で展示することを調整しているところです。

（⑦パンとおかしの Spring マルシェ）
最後に、昨年度、能登半島地震応援プロジェクトとして色々な事業を実施した中の１つとして、パンとお菓子を図書館の中で販売するイベントを行ったところ、大変好評で 10 時からスタートした後、12 時にはほぼ全部売れてしまったということがありまして、今回は図書館の賑わいづくりということで実施します。
年明け３月 14 日（日）を予定しております。

簡単ですが、今年度実施済みの事業報告と今後予定している事業について説明させていただきました。
以上です。

＜河村会長＞
ありがとうございます。
本当に石狩市民図書館ならではのたくさんの催し物で、ただ本を読むだけの施設ではない使われ方をしており、とっても素晴らしいと思います。
2000 年に建てた時にそういう構想で建てておりますので良いのではないでしょうか。
図書館の中でお酒を飲みながらできるという催し物、良いですよね。
こういうイベントに限ってでもお酒を飲める図書館もいいかなと思うのです。
皆さん、ご意見ございませんか。
とても人口も減ってきて、利用者が減ってくる中で図書館としてやっぱりどうしたらよいか、図書館だけではなくて、市全体を図書館の行事で盛り上げているなっていうのが聞いていて感じたのですけども、何かございませんか。

－ 委員から発言なし －

＜河村会長＞

私の方から指名した方が話しやすいですか。
道立図書館では、皆さんの発言を促してくださいと言われておりまして、順次、絶対誰かが発言するように進めていくことをやっておりましたが、初回なので皆さんはご発言とかご意見がおありだと思うのですけれども、なかなか自分から「ハイっ」と手を挙げにくいのかなと思いまして。
ご発言・ご意見がなければないで結構ですので、順番にお願いしてみましょう。
前からいらっしゃる長谷川委員からお願いします。

＜長谷川委員＞
たくさんご紹介されたのですけれども、ふらっとくらぶによるお手伝いであったり、こども司書が翌年にまたお手伝いであったり、それから、石狩南高校さんや石狩翔陽高校さんが積極的に一緒に何かをしてくださるということで、なんかすごく子どもたちが参加することによって見えるものや進むもの、また、そのことで学んでいけるのでそれは素晴らしいなと思いました。
後、JAZZ NIGHT は昨年参加しましたが、とても良かったです。

＜河村会長＞
良いですよね。
それでは、佐藤委員。

＜佐藤委員＞
私も説明を聞いて、JAZZ NIGHT に興味がわきました。
お酒が販売されるとのことでしたが、自分で持ってきても良いのでしょうか？

＜長谷川委員＞
持ち込みはだめですね。
1 杯 500 円程度だったかと。

＜佐藤委員＞
飲み過ぎている感じの人がいたらもう駄目ですとか言われたりするのですかね。

＜工藤副館長＞
さすがにそこまでの方はいません。

＜長谷川委員＞
節度を持ってですね。
音楽を聞くのがメインで、とても良い時間を過ごせますよ。

＜佐藤委員＞
そうですか。
やっぱり来てみないとわかりませんね。
百聞は一見に如かずってことですね。
あと、最後の方にありましたパンとおかしの Spring マルシェとか、どうしても飲み食いの方にじゃないですが、好評だったということだったので、複数回・年に何回かとかってやったらいいのかなっていうのは運営する側の苦労を知らないで言いますけど、そういう楽しいイベントが多くできたらいいだろうなっていうのは思いました。
あと、先ほど長谷川委員もおっしゃっておりましたけども、学校関係者の視点が強くなるかもしれないですが、ふらっとくらぶによる図書館の手伝いっていうのはすばらしいなと思って見ています。人との関わりもあり、そしてこう図書館に足を運ぶという。やっぱり自分が何かそこで携わったっていうのは、何かしらのプラス要因ですよね。将来、自分がそんなことやったね、とか、大人になった時に図書館に行ってみようとかっていうのもあるでしょうし、何よりもこの「携わっていて」という部分で自己有用感っていうのが高まるのではないかな。
不登校が駄目だっていう考え方は駄目ですけど、少しでも人と関わって、一歩前に踏み出すことに繋がっていくというということが本当素晴らしい取り組みだなと思いました。
以上です。

＜河村会長＞
はい、ありがとうございます。
高坂委員、いかがでしょうか？

＜高坂委員＞
はい。
16 年ぐらい前に石狩で保育士として働いていまして、実際にこの図書館で紙芝居だとか絵本だとかを借りてこどもたちに読み聞かせをしていたっていう思い出があるのですけれども、自分自身、図書館の概念っていうのは本を借りる・返すぐらいしか思っていなかったのですけれども、委員をさせていただきまして、こういう事業だとかイベントをやられているってことを知って、非常に市民の集う場所というか、図書館がそういう場所になっているなとすごく実感しまして、とても嬉しい気持ちになりました。
昨今のこどもたちが YouTube や動画の方に行きがちなのですよね。
保護者からもそういう相談されたりするのですけれども、やはりこの本に触れる、こども園では絵本を大事にしてはいるのですけども、なかなか家庭で絵本の読み聞かせが忙しくてできない、そして動画を見せてしまうことだとか、色々とお話をとてもたくさん聞くのですけれども、そういった時に借りてきたその絵本だとかに触れるっていう機会をどんどん持ってもらって、保護者の方々に親子で図書館を利用してもらって、そのきっかけとしてイベントできてみたら

こういうふうな図書館、楽しいねっていうふうなきっかけになっていけばいいなっていうふうに思って聞きました。
ですので、こういう事業だとかイベントを定期的にやっていただいて、立ち寄りやすい図書館にしていただければ良いと思います。
以上です。
ありがとうございます。

＜河村会長＞
はい。
ありがとうございます。
順番に、秋田谷委員いかがでしょう。

＜秋田谷委員＞
はい。
私 PTA から出ているのですけれども、職場が花川北コミンティセンターの中にある情報センターぽぽらーとというところで、まさにこの図書館のほうでの受け渡しを受け追っているのですけれども、やっぱりあの高齢者の方は花川北に住んでいるけど図書館に行けないっていう方が多いのですよね。
花川北分館だったところが今情報センターになってこの本の受け渡しだけをしているのですけれども、もう何年か前まではそこで団体貸し出しを受けて本も貸し出しもしていたのですよ。
実際に今はパソコンだけ置いて本は図書館から取り寄せられるとして行っているのですけど、やっぱり年配の方は直接本を選びたいっていう方が多いので、この写真を見てここにバス停があればいいのになって思いました。市役所まではあるのだけど、若干遠いかなと思って、冬だったら天気が悪い日ってあると思いますし。
これは図書館への要望にはならないですけれども、公共施設を結ぶ循環バスとか石狩にあればいいなと思っていました。
パソコンで普通にやれるけど、その予約が難しいと感じて。
こどもたちは自転車でどこまでも行けると思うのですけど、やっぱりある程度車を手放してしまうとなかなかいけないということがあるので。
私、花川南に住んでいるのですけれども、花川南分館の予約数がすごいなと思って見ていたのでやっぱり本が好きな人にとって、図書館は特別な場所だろうなと思ったので、イベントとかいろいろやっているのでそういったとこにももっと参加しやすくなるといいのに、更には、便があって近くまでバスなどでいけるといいなと思います。
以上です。

＜河村会長＞

はい。
ではぐるっと周ってきまして、もう１度の発言お願いできますでしょうか。
麓委員、いかがでしょうか。

＜麓委員＞
はい。
4 ページの⑧の除籍図書設置場所への検討とありましたが、前に私がこちらの図書館を利用させてもらいに来た時も本のリサイクルコーナーがあり、除籍した本をどうぞとしていて、今はもう全部出払っているかと思っていたのですけど、更に色々な場所に置いてということで、廃棄をすぐにするのではなくて、可能な限り持って行ってもらえたらってことでやってらっしゃるのでしょうか？

＜工藤副館長＞
そうですね。
場所が限られていますが、リサイクルコーナー以外は郵便局となってしまうと幅広く色々な人が手に取れる場所っていうことを考えると、少しでも場所増やした方が多分手に取りやすいのかなということもありますので、置ける場所を増やした方がより市民の皆さんの近くにも行くかなとの想いで検討していましたが、なかなか難しいのかなと思っています。

＜麓委員＞
ここまでやっている図書館も珍しいと思うのです。
本学が来年の春に移転ということになりまして、とんでもない数の本を除籍していて、実際、基本的には学内の方に館内でどうぞとやっていて、いらっしゃった石狩市民の方にもどうぞ持って行ってくださいとしています。札幌の図書館とかもものすごい量を毎年除籍していますけど、そこまで頑張ってないと言うと変な感じになりますが、そう思う中で、石狩市の図書館はすごく素晴らしいなと思って聞いていました。
でも、実際は全部がなくなることはないと思うのですけど、できるだけその廃棄にはしないように努力していらっしゃるっていうことなのですよね。

＜工藤主査＞
所蔵スペースの確保の部分で限界にきているというものがあり、これまでの数十年はもう普通に購入だけをすればよかったのですけども、やはり除籍に結構追われているということはあります。

＜麓委員＞
そうですよね。

自分のところでもまさに少なからずおきていることかと。
なかなか他ではしていないことだと思いますので、素晴らしいなと思って聞いていました。
大学図書館であれば、定期的に古紙回収業者さん来てもらって、古紙としていくらという感じで処分しているものなので、そのような取り組みは素晴らしいなと思います。

＜河村会長＞
はい。
ありがとうございます。
除籍の問題はやはり1番大変ですよね。
今おっしゃっていただいた 26 年間分だとすると、除籍しないと新しいものを買えなくなっちゃいますもんね。
今までの取り組みとしては図書館の中で自由にお持ちくださいってやっていましたけれども。
大学の方でも教員が退職するとその教員の研究室にあります本を一旦、皆さんご自由にしてくださいという形にはしていますよね。
それで駄目だったらもう廃棄しかないのですけど。
普通に使われている本であれば、それはそれでしょうがないのかなって思います。
今お話を聞いていて、病院だとかそのいろんな図書館以外の場所を求めていたようですけど、そもそも要らなくなって廃棄するような本ですので、ここでも話があったように、なかなか受け入れ側としては上手に断ってくるので、仕方ないですけどね。
だから試みとしては実際にも実施されているということでまあいいのかなと思っていますけど。
道立図書館の方でも保存機能を持たせているのですが、いっぱいになってくると廃棄されるので、廃棄する前にはこれは残しといた方がいいのかどうかということの確認もしてほしいようなことは言っていました。
各市町村の方が受ける方法もあるのですけど、事前にリスト化してもらってその中で選ばせてほしいみたいなこと言っていましたけど。
まあそういうレベルの本ではないですよね。
今、実際に使われているやつですもんね。
今のやり方でいいのではないですか。
図書館まつりで大々的に広げて交換し合うようなことを北広島市でもやったりしているようなことも聞いています。交換じゃなくても、持って行って良い的なことを結構やっていて、好評みたいですよね。
石狩市のお話を聞いていると交換じゃなくていいから持っていってくださいということなので、図書館まつりを活用されたら良いのではないですかね。

＜工藤副館長＞

除籍した本については、一瞬にしてなくなってしまうので処分できなくて困っているということは無いです。
少し前ですと、大量に持って帰って売ってしまうという人がいたものですので、除籍した本を置く場所をスタッフから見える位置に変えるような工夫をしてそのようなことはさせない動きをしていますが、それでもニーズがあるようで持ち帰りはしていただいておりますし、雑誌については、雑誌だけでそのようなイベント・タイミングがあります。

＜工藤主査＞
それを 11 月に行っておりますし、その以前に道立図書館で保存の受け入れをしていただけるというのもありますので道立図書館に連絡をして、その必要がないという雑誌については市民の方に提供しているというやり方をしています。

＜長谷川委員＞
要は、一部のところだけじゃなくてもっと色んな人に触れてもらえればという話で、それでほかに場所がないかなということで検討いただいていたということですね。

＜麓委員＞
道立図書館は雑誌のバックナンバーを引き取られるのですか？

＜工藤主査＞
そうですね。
私たちの方では保存年限が切れたものついて、除籍を行っているのですけれども、その中で道立図書館の方へ保存しておきたいものはないですかということでリストを送りますと、ある程度の雑誌は結構キープをしたいようです。

＜麓委員＞
石狩のっていうことではなく。

＜工藤主査＞
はい、そのようです。
多分ですが、道立図書館でも穴抜けみたいな保存がされていて、そこを埋める感じだと思います。

＜麓委員＞
ありがとうございます。

＜河村会長＞
はい、ありがとうございます。
一通り皆さんに発言いただきましたけれどもまだ時間がありますので、せっかくの機会ですので質問でもご意見でも構いませんけどいかがでしょうか。

これだけイベントやって、いるだけではなく色々と事業をやっているっていうことは、かなり図書館職員の努力というか、お仕事が大変だと思うのですけど、まあ組織的にはどんなふうになっているのですか？

＜工藤副館長＞
組織的じゃないのかもしれないですけど、頑張っているとしか言いようがなくて、分担して行っています。
なかなかこういう場で言いづらいですけど。
新しい発想の事業もありますし、皆さんから色々とさっき言われていた高校生との連携や、ふらっとくらぶさんなどとの事業というのは、どちらかというと相手側から提案が来ていることが多いのです。
そして、その投げかけにこちらも受け入れる範囲、協力できる範囲であれば協力したいという気持ちでやっておりますし、話が逸れるかもしれませんが、今までこども園だとかに対してアプローチが少なかったと感じておりましたので、今年度は現在実施されている図書館ビジョンの計画の中でできるだけこども園などの方にも何かできないかなと。
例えばその紙芝居の器具を現在は貸出ししておりませんがそれを貸し出すとか、定期的に図書館側からおはなし会に職員が行ったらどうだとか、そういうことで関わりが持てないかなと考えているのです。
そういうことを実施していくと事業がどんどん増えていく一方なんですが、なんとかやりくりして色々な事業をやっていきたいと思っております。

＜河村会長＞
市民を巻き込んで仕掛けをしているというか、図書館の場所を利用してもらいながら市民の活動に寄与しているというか。
JAZZ NIGHT とかもまさにそうですよね。

＜長谷川委員＞
花川南中学校の不登校傾向にある生徒とのボードゲームもそうですよね。

＜工藤副館長＞
はい。

たまたま学校図書館の向かいの教室が不登校傾向の生徒さんが学習している場所になっていて、当該生徒が学校図書館を覗きに来るのでボードゲームをやってみようかということを学校司書が企画して、校長先生からご了解を得て実施したというような流れになっておりました。

＜長谷川委員＞
これに関して、実施した事で何か成果みたいなことはあったのですか。
私、他にも花川中学校のコミュニティスクールの役員をさせていただいておりますけれども、こういうことでそのような生徒たちが少しでも来てもらえるのであれば、他の学校でもどうかなと思うのですよね。

＜工藤副館長＞
私、6 月に実施した際に参加していましたけれども、参加した生徒さんたちと会話して、とても楽しくみんなと一緒に遊べているっていう状況で、更には、終わった後にはみんなで給食を食べました。
それを考えると、それを繰り返していくことで、学校に出てきやすい・打ち解けやすくなるかもしれないなという感想を得ました。
それを実施して、今現在、効果があったから続けていくようなことまででではないですけれども、何かのきっかけにはなるかなと思いながら、人との関わり合いができるとか、もちろん私は生徒さんたちと初めましてでしたし、ボードゲームのやり方を教える人も初めましてでした。
そのような方が何人かいた中で、そういう大人とのコミュニケーションをとる機会にもなりました。

＜河村会長＞
ありがとうございます。
他はございませんか。

＜麓委員＞
要覧の 15 ページにあったボランティアさんたちの活動についてですが、すごく盛んな図書館と以前から感じております。
私、そこをすごく素晴らしいなって思っていて、15 ページの 4 番でありますが、これは開館当初からいろいろ団体さんがいらっしゃったと思うのですけどこれも特にニーズが減ったりするとか、そういうことはなく皆さん活発に活動を続けていらっしゃるのでしょうか。

＜工藤副館長＞
やはり、高齢化というのはあると思いますけれども、そんなに極端に目に見てというような感じではありません。おはなし会についてはほぼ毎週土曜日はどこかの団体さんが実施している

というところです。
図書の修理ボランティアさんについても毎週来ていただきまして、朝から昼過ぎぐらいまで活動してくださって図書館の本の修理をボランティアで実施していただけているという状況で、今のところ極端に減っているとか、そういうような感覚はないですね。

＜麓委員＞
札幌市でもこんなに団体さんが関わっていないじゃないかなって思ったので、本当に素晴らしいと思います。

＜河村会長＞
やはりその辺は札幌市のように大きいとそういう組織が固まってしまうので、石狩市くらいの規模だとみんな仲間として参加しやすくなるのではないですかね？
ボランティアの活動とか、所管だけじゃない活動っていうのがちょっとしたきっかけを仕掛けるのは図書館ということで、高齢化が進んでいますので3人に1人が65歳以上ということで、私もその3人に1人なのですけど、家でボーっとしているよりも少しでも自分の知識とかで役に立ちたいと思っている元気な人がいっぱいいると思うので、そういう場を図書館が与えてあげるというと変ですけど。
もったいないですよね。
石狩図書館だけで終るのではなくて、近くの当別の図書館などと、「ここでやったらそっちでもやる」と図書館間の協力っていうのはいかがなものですか。

＜工藤副館長＞
そうですね、もちろん相互貸借ということで、相手側の図書館にある本をこっちで借りていこうと利用者のためになる提供はしていますけれども、事業的な部分っていうとなかなかありませんね。
唯一あるとすると、例えば絵本作家さんが来て、こっちでも呼べば交通費が安くなるなどのような繋がりはあります。道立図書館さんとかとはそういう人がちょうど来るからこっちも呼べばホテル代を安くしてお招きできるなどということをやるぐらいでしょうかね。

＜河村会長＞
石狩市さんの場合は、開館当初から市外の在住者にもオープンに使ってもらえるようにしているってことで、利用者の半分ぐらいは市外在住者の方だと思うのですけど、それは利用者が良いと思ってこちらを利用しているので、胸を張ってもらって、逆にこんなによその市町村から利用者がきていることを宣伝していくぐらいのつもりの方がいいのかなと思います。
他はございませんか、フリートークでも構いません。

＜河村会長＞
厚田小の図書館はどうですか。
私は貸出返却の拠点を学校に持たせたらどうだということで道立図書館へ提案しているのですけどね。
石狩市の事例を挙げて北広島市の西部小学校ですか、事例を挙げてよその市町村でもそういうふうにしていたらどうだっていう話はしているのですけど、いかがですか。厚田小学校図書館ですよね。

＜長谷川委員＞
厚田学園ですね。
小中一貫校で、そこに住んでいる人たちもみんな借りることができる図書館になっていますよね。

＜工藤副館長＞
そうですね。
小中学生や地域の方、どなたでも借りることができますし、先生方と司書が協力をして学校図書館的な役割を持っています。

＜工藤主査＞
人口減少が激しいところなので、なかなかそう活発に利用させるようなところまではいかないのですけれども、やはり地域の方々に解放していかなければというところですね。

＜河村会長＞
小学校でも中学校でも高校でもそうでしょうけど、だんだん人口減ってくれば廃校とか統合したりしているわけですから、もう人口が少なくなってきたからといって、そこのサービスをおろそかにすることができなという、まあ、平等の立場からしていくと学校があるのだったら学校を貸出し・返却の拠点にしたいということなのですけれどもね。

＜長谷川委員＞
多分、厚田という地域でこどもたちは学校へ行ったときに他の学校と同じように学校の図書館として使っている中、どれぐらい我々よりも若い方が利用しているかわかりませんが、年配の方々がどれだけ利用するかっていうところなのですよね。バスの問題もあり、市役所方面まで行くことは厳しい今としては本を読みたくて借りたいなという人にとっては学校でできたりするのは良いことじゃないのかなと思います。

＜河村会長＞

そういう状況で不便になってきている中、石狩市さんの場合は縦長だから、動きにくいことを考えるとすごい対応ですよね。
素晴らしいなと思います。
そろそろ出尽くしたかなと思うのですが、館長の方から何かありますか？

＜森本館長＞
はい、私は図書館での勤務が初めてなものですから、色々な部局を 30 数年回っていますけれども、実際、図書館に来てみて社会教育の部長でもありますので、色々事業を職員が頑張って一生懸命やっていますし、特に先ほどお話がありましたボランティア団体の方々も読み聞かせなどを本当に一生懸命やられていて、本当に頭が下がる思いであります。
図書館ができて 26 年間ぐらいになりますが、建物自体もそれだけ経過した建物とは思えないぐらいのつくりになっていて、建設当時に苦労したという言葉を引継ぎながらガラス張りの館長室で勤務させていただいており、26 年間の歴史、苦労した事業やボランティア団体さんの想いを引き継ぎながら、この良い流れを継続していければと思っております。
皆さんのお力をお借りしながら、またよろしくお願いしたいと思います。

＜河村会長＞
ありがとうございます。
本当に石狩は素晴らしい図書館だなと思います。
新しいことをやるにも障害もあんまりないような丁度よい規模ですよね。
他にご意見ございませんか。
では、初回でしたけれども、皆さんとフリーでもお話できるような雰囲気ができたなとは思っております。
その他図書館の方から何かありますでしょうか。

■その他

＜工藤副館長＞
次回の委員会ですが、年明け 3 月くらいに考えております。
日程調整等、ご連絡させていただきますので、よろしくお願いいたします。

■閉会

＜河村会長＞

はい。
では、以上をもちまして令和８年度　第１回石狩市民図書館協議会を終了させていただきます。
皆さん、活発なご発言をありがとうございました。
これからもよろしくお願いいたします。

令和８年 11 月 10 日

会議録署名委員

会長 河村孝行